

学校施設適正規模・適正配置検討委員会（まとめ）

1. 参加者

(1) 検討委員 16名

＜敬称略＞

所属機関等	氏名	所属機関等	氏名
余目中学校 PTA	加藤 智	狩川保育園保護者会	秋庭 聡
立川中学校 PTA	阿部 一道	余目中学校 PTA(母親委員)	三浦 志保
余目第一小学校 PTA	藤田 靖	余目第二小学校 PTA(母親委員)	渡部 直子
余目第二小学校 PTA	齋藤 慎一郎	余目第三小学校父兄と教師の会(母親委員)	菅野 由香里
余目第三小学校父兄と教師の会	荒木 信	前余目保育園保護者会	佐藤 勝則
余目第四小学校 PTA	齋藤 裕子	前立川小学校 PTA	森 保如
立川小学校 PTA	薄網 光彦	庄内町校長会(余目中学校)	佐藤 真哉
余目第三幼稚園保護者	齋藤 敦	庄内町校長会(第三小学校)	松田 透

(2) オブザーバー 1名

所属・役職	氏名	付記
(株)協和コンサルタンツ 仙台支店 都市計画部 計画グループリーダー	日隈 真也	老朽度調査委託先

(3) 事務局 7名

所属・役職	氏名	所属・役職	氏名
教育課 課長	佐藤 美枝	教育課 課長補佐	佐藤 正芳
教育課 指導主事	高橋 一枝	教育課 指導主事	富山 裕二
教育課 主査兼学校教育係長	渡部 恵子	教育課 教育施設係長	押切 崇寛
教育課 教育施設係主任	佐々木 一記		

2. 開催の状況

○ 第1回 令和2年7月29日(水) … 参加人数 24名

(1) 経過説明及びスケジュール

(2) 検討会の設置目的

- ① 幼稚園、学校施設の調査結果
- ② 資料説明
- ③ 質疑応答、アンケート記入

○ 第2回 令和2年8月27日(木) … 参加人数 22名

(1) 説 明

(2) グループワーク 1回目

- ① グループA テーマ：統合をせず現学校数を維持
～ 今後の児童生徒数を見込んだ減築又は現施設の有効活用を含めて ～
- ② グループB テーマ：小学校1校と中学校1校への統廃合の検討
～ 小中一貫校の話題にふれる ～
- ③ グループC テーマ：4小と立小の統合、1小2小3小の統合検討
～ 中学校を含めて統廃合の枠組みを検討 ～

(3) 検討結果の発表

○ 第3回 令和2年10月16日（金） … 参加人数20名

(1) 説 明

(2) グループワーク 2回目 テーマは1回目と同じ

(3) 検討結果の発表

○ 第4回 令和2年12月4日（金） … 参加人数20名

(1) 検討委員会のまとめ

3. 検討の成果

(1) 開催趣旨

本町の学校施設は、特に余目第一、第二、第三小学校の3校は、昭和39年から41年に建設され平成20年前半に耐震工事は行っているものの、建設から50年以上経過し、設備を含めて老朽化が進んでいる状況にあります。また、文部科学省では、平成27年3月に「文部科学省インフラ長寿命化（行動計画）」を策定し、各学校施設の管理者に対し令和2年度までに「長寿命化計画」を策定するよう求めています。

合併翌年の2006年度（平成18年5月1日現在）の園児・児童生徒数2,593人に対し、2020年度（令和2年5月1日現在）には1,714人となり、879人（約34%）の減少となりました。

また、令和2年3月に改訂された庄内町人口ビジョンの年少人口を参考に、事務局においてシミュレーションした結果、2060年度（令和40年度）の園児・児童生徒数は、園児243人、児童730人、生徒365人、合計で1,338人となることが想定されます。

これらの状況から、施設の老朽化と将来の園児・児童生徒数の推移を踏まえ、将来を見据えた持続可能な施設整備を図るため、まずは、児童生徒の保護者や就学児前の保護者の意見を確認するため、学校施設適正規模・適正配置検討委員会を開催することとなりました。

(2) 開催内容

① 第1回目の検討委員会では、昨年度に開催した庄内町立中学校の未来を考える懇談会の検討内容、幼稚園・小中学校の施設の現状や老朽度調査の状況を説明しました。その後、第2回目以降に行うグループワークのテーマに検討委員の意見を反映させるため、次の設問のアンケートを実施しました。

〔設問1〕子ども達にとって学校の学級数はどれぐらいが望ましいと思いますか？

〔設問2〕学校の統廃合は必要だと思いますか？

〔設問3〕あなたが描く学校像（規模・配置等の視点から）

〔設問4〕本検討会への要望

設問1のアンケート結果は、「学年1クラスの良さ」や「複式学級にならないければ現状維持」などの意見はあるものの、小学校では75%、中学校では62%に上る回答が「各学年クラス替えができる学級数」を望む結果となりました。

設問2では、「学校の統廃合が必要」という回答が87%に上りました。一方で「学校の統廃合は必要ない」との回答はなかったものの「わからない」への回答が13%ありました。その内容は「統廃合により学校がなくなってしまう寂しさ」や「2060年度の想定児童数が730人（1校あたり約150人）であれば、5校体制が維持できるのではないか」との意見となっています。

設問3の「あなたが描く学校像」に対する意見では、「小学校1校、中学校1校に統合」、「1小2小3小を統合、4小と立小の統合」、「小中一貫校」などの具体的な意見がありました。また、「小学校、幼稚園、公民館があり地域とともにある学区」、「地域とともにあり、小さくても生き生きと学べる学校」など、庄内町の特徴を残して行きたいとの意見もありました。

設問4には「検討委員会の声、皆さんの声が広報等を通じて町民の方々に伝えながら進められると良いと思う」、「10年先、20年先を見据え地域の意見を取り込んだ話し合いにしていきたい」などの意見や、「この検討委員会の意見をもって保護者全体の意見と思われる」と心苦しい面もあり配慮頂きたいとの思いも寄せられました。

なお、アンケート結果の詳細は「別紙1」のとおりです。

② 第2回目の検討委員会を開催するにあたっては、アンケートの集約をもとに、実際に具体案として出された次の3つのテーマを設定し、グループワークを行いました。

〔グループA〕統廃合をせず現学校数を維持

〔グループB〕小学校1校と中学校1校への統廃合の検討

〔グループC〕4小と立小の統合、1小2小3小の統合の検討

また、グループワークに入る前に、「小中学校の必要面積・建設想定費用早見表」、「集落別児童生徒数及びスクールバス関係資料」、「庄内町の財政状況」をはじめとする「参考資料1～8」までの資料説明を行いました。各グループの構成は、検討委員の出身地区・学区

のバランスを考慮し、事務局を含め8人体制で、「1.イメージする学校のすがた」、「2.グループワークの観点」、「3.考察」、「4.参加者の感想」についての話し合いを行いました。その後、全体で検討の成果を発表しました。

- ③ 第3回目の検討委員会は、2回目に引き続き、同様のテーマでグループワークを行いました。ただし、今回は、検討委員自らが希望するグループへの参加とし、各テーマをより掘り下げたまとめの議論を行うため、「テーマの特徴（特に際立つ良さ、課題）」と「課題改善のために考えられるオプション・工夫」に重点をおいた話し合いを行いました。

また、最初に参加したグループから他のグループへの移動も可能としましたが、多く委員が移動することなく、最後まで同じテーマへの参加となりました。最後に、2回目と同様に全体で検討の成果を発表しました。

なお、グループワークでの検討結果は「別紙2」のとおりです。

(3) 検討結果

本検討委員会は、昨年度の庄内町立中学校の未来を考える懇談会のまとめに記載されている「中学校だけでなく小学校を含めた学校全体の適正規模・適正配置の検討」と「より具体的な検討を進めていくこと」を今年度の検討課題に掲げ、アンケート結果に基づき3つのテーマについて、幅広く、そして掘り下げた意見をまとめることができました。

検討を進めるにあたり、改めて、小中学校は、児童生徒の教育のための施設だけではなく、各地域のコミュニティの核としての性格を有し「地域とともにある学校づくり」が、本町の特色として根付いていることが確認できました。

また、学校は、地域の未来の担い手である子供たちを育む場でもあり、まちづくりの在り方と密接不可分であるという性格も有しているため、学校の適正規模・適正配置については、児童生徒の保護者や就学前の保護者の声を重視しつつ、地域住民の十分な理解と協力を得ながら、丁寧な議論を重ねることが大切です。

今回は、限られた回数での検討とはなりましたが、アンケートの結果や、グループワークの2回目に実施した自分が希望するテーマへの参加人数を見れば、将来にわたり持続可能な学校施設の整備にあたっては、現状の学校数を維持することよりも、委員が思い描く学校の適正規模に意見の違いは見られるものの、統廃合を望む意見が多かったことが分かります。

しかしながら、アンケート結果にもありましたが、参加した委員は代表としての立場であり、学校の適正規模・適正配置の検討は、様々な要素が絡む困難な課題であるため、地域住民の意見や学校の先生など、より広く意見を求める機会が必要です。

来年度以降は地域の代表者を加え、審議会を立ち上げるなど、広く町民の意見を反映し、今回の検討委員の生の声が、議論の土台となって生かされることを期待しまとめとします。

第1回庄内町学校施設適正規模・適正配置検討委員会 アンケート結果

【設問1】子ども達にとって学校の学級数はどれぐらいが望ましいと思いますか？

(小学校)

クラス替えができる 1学年 2～3組
1学年 2組くらい
生徒数が多ければ、2学級がベストだと思う。○小の場合は、生徒数が20人もいない学年もあるため、1学級は仕方ない。幼稚園から1クラスでくるのであれば、子供にとってはそのまま同じクラスのほうが良い
1学年 2～3クラス 1クラス30人前後の生徒数
各学年クラス替えができる教室数があればいいと思う
クラス替えができる数がほしい 1クラス40人は多いと感じる
1学年2クラス 生徒数が少なくなっているのであれば、少人数に充実した教育体制を整えるチャンスともいえるのではないか
複式学級にならなければ現状のままで
全学年 1～2クラスくらい
1クラスで6年間の良さも感じるし、3クラス以上でクラス替えができる良さもあるので何とも言えない
多いほうが良いと思うが、最低でも2クラス以上が望ましい
各学年2クラス以上が望ましい
クラス替えのできるように2クラス
現状のままで

(中学校)

クラス替えができる 1学年 4～5組
1学年 5～6組位
現状のまま
1クラス30人前後の生徒数
複式学級にはならないようにしてもらいたい
中学生の子供がいないので想像になりますが、各学年、目が行き届く人数でのクラス数が良い
1学年5～7クラス程度 1～4小と立川小を考えれば、この位になるのでは。現状バス通も有るので1つの中学でも良いのでは
各学年クラス替えができる教室数があればいいと思う
各学年4クラス位
1クラスで6年間の良さも感じるし、3クラス以上でクラス替えができる良さもあるので何とも言えない
自分が中学生の時は6クラスあり、良い印象があった。
クラス替えのできるように2クラス

【設問2】学校の統合は必要だと思いますか？

(①はい)

小学校での目のとどく授業も良いと思うが、統廃合によるクラス替え、スポーツ等大人数での生活を望みます。
クラス替えの機会がない。部活の選択肢が限定
子どもの減少に伴い、4小と立川小を一緒にしてみるのもありかも。十数名しかいないクラスがあるよりは、大勢で勉強したり、一緒に学ぶ事がいろいろと子供にとって必要になる。スクールバスは両校使用している。公民館等はそのままする。1小から3小はそのままが良いと思う。中学校に関しては現状のままでも良いのでは。
中学校はそのままでも良いかなと思う。案1：小学校と幼稚園も四小学区を立川学区に統合するのはどうか。案2：余目一つの小学校 案3：余目2つの小学校 幼稚園もトイレ他、設備が古く(和式トイレが出来ない)排セツも出来ない子がいることから、新設備を考えた統合。建物が古く”こわい”イメージをもつ。余目2つの幼稚園、狩川と4幼で1つなど
子どもの数が減っていくことで様々な考えを持った人との出会いがへるので、多くの出会いをしてもらいたい。
平成18年から生徒数は令和42年で約半数になるので、現状のまま全て計画対象にするのは合理的ではない、部活、スポ少等の仕組みが成り立たないのではないかと。4学区→2学区に、立川小と四小など再編は必須ではなかろうかと思えます。また、長寿命・新築とコストが変わらないのであれば、再編し学区に新しい小学校を建てた方が良いのではないだろうか。
この町の規模に合った校舎が必要
地域性や地理的な問題はあるものの、今後の児童・生徒数の推移から考えれば、学校数は多い状況。適正配置とはいえない
生徒数の減少と校舎の老朽化のため、将来を見すえて統廃合は必要だとも思います。
児童数減少で行事や授業に盛り上がりにかける感じがする。競争心がさがる。
子どもの数だけでなく、町民の減少も視野に入れると、将来的に考えると統廃合が必要かと思う。
少子化によって生徒数が減少して、現状では複数のクラスが難しいのではないかと。学校の老朽化や建て替えの費用を減らす
少子化による児童・生徒数の減少。施設の有効活用
狩川保育園の場合、立川地区と余目地区の園児が集まっているが、幼稚園に上がった際にそれぞれの学区で進級するため、園児が少なくなる。中学校まで見据えれば、統廃合は必要と考えます。立川小と余目四小は統合すべき

(②いいえ) 回答なし

(③わからない)

町の財政を考えれば、(統廃合も) 必要なかと思いますが、いい学校を作ること考えれば、今のままでもいいと思います。2060年の建て替えを考えると、ここまでは小学校で730人。5校体制が維持できるのではないかと。(単純に5で割ると1校150人。学年25人クラス)
少子化で子供が少なくなる中で、やはりクラス替えの経験や活動をしてほしい想いがあります。ただ大好きな○学区が○学区でなくなるとさみしいという思いもあります。今の時点でどちらがいいかわかりません。

【設問3】あなたが描く学校像（規模・配置等の視点から）

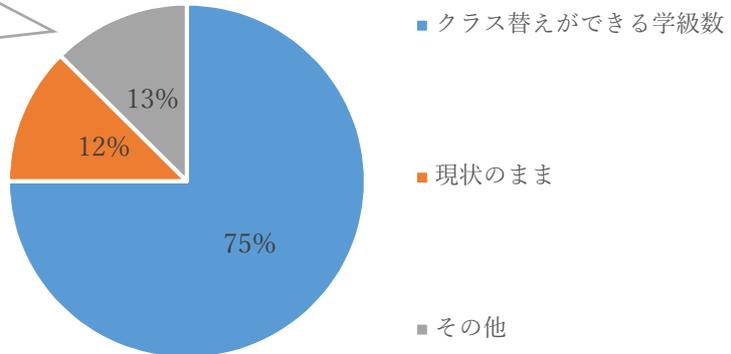
将来、子供の人数の減少が進んでいくことから、大規模な学校統合、学区再編が必要だと思いません。
統合により各学校の人数がほぼ同じくらいの規模になればいいと思います。
余目に1つの小学校（1，2，3小を1つに統合、4小と立川を1つに統合）
中学校は余目、立川を1つに統合
子どもたちの将来を考え、大規模な学校統合
時代に合った学校設備
余目地区の小学校数は多いと思うので庄内町全体としての小学校数を3校などに考えてみるといいと思います。
幼稚園、小学校・児童保育を同じ敷地、建屋で管理できれば良いかなど。マンモス校の様な大きい施設で、生徒数が多ければ児童の活動も活発になるのでは。また生徒数に対しクラスあたりの人数も少なくし、先生の負担を少なくし、教育の充実を図ればと思います。車社会の現状でバス通を活用すれば、通学距離は大きなリスクにはならない。スポ少等の形が保てないので統合はできるだけ大きな規模が望ましいと思います。
将来を見据えた大規模な学校統合
理想は地域とともにある学校というのが、子供たちの成長にも有益と思う。現実的には校数の減少は必要かと。クラス替えがあることでよろしくない弊害も緩和されるケースもある。
集団の中で、人間性を育てていくことができる学校（小規模校のメリットあるが）
小学校は2校（350人位）、中学校は1校（350人位）
地域との関わりが重要になっていくので話し合いを重ねて方針を定めていかなければならない。
現在の地域で区切ると将来的に児童数（人口も）減少で難しいかと思う。庄内町として広く考えていく必要があると思う。
庄内町で小・中一貫か小学校1つ、中学校1つ 配置については今の四小学区あたりかと・・・
余目、立川地区の中間あたりに小・中一貫校をつくるのもありではないか
生徒がいろんな選択肢を選べる環境が望ましい（学校行事や部活等も含めて）
小学校に近くの学校どおしを1つの学校へ統合（2校、3校統合とか・・・）
中学校は2校が望ましいのでは・・・話にもあった庄内町は南北に長い。現在の余目・立川の2校でよいと思う。
それぞれの学校に歴史、伝統がある為、その地区毎に学校は必要と思います。ですが人口減少の中で全てを今まで通り行える訳ではないと思います。
地域とともにあり、小さくても生き生きと学べる学校（子どもの学びを最優先に考えると、人数を多くする意味はあまりない。子供を育てる学校づくりを中心に考えていきたい。幼、小、公民館の連携を庄内町の特徴として残していきたい。
地域の方々、卒業生たちと共につくる特色ある学校（特色の内容までは思いつきませんが）現在の小学校、幼稚園、公民館があり地域と共にある学区はとても良いと思う。（私の地元にないで）

【設問4】本検討会への要望

会議で挙手して質問するのはしにくいので、アンケートで意見を求める事はとても有難いです。
できるだけ統合は進めていただければ、合理的でさびしい小学校生活にならないのではと思います。
この委員会の意見をもって保護者全体の意見と思われると心苦しい面も……。その点を配慮いただきたい。
町の予算の中で学校施設にかかる予算がどのくらいなのかわからないので示していただきたい。
楽しくできればと思います。
分科会等で班分けして、話しやすい環境にしてもらいたい。
10年先、20年先を見据え地域の意見を取り込んだ話し合いにしていきたい。
今後、検討委員会の声、みなさんの考えが広報等を通じて町民の方々に伝えながら進められると良いと思う。

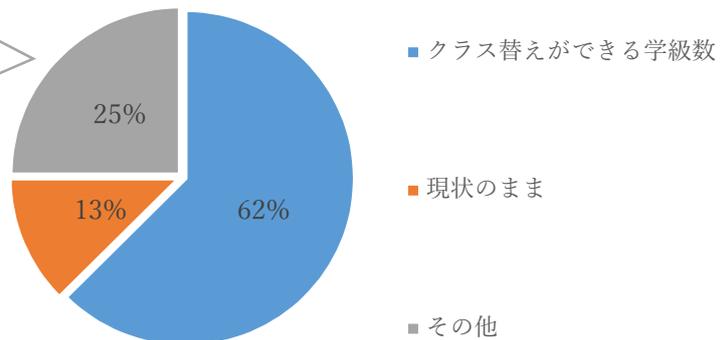
〔設問1〕子ども達にとって学校の学級数はどれぐらいが望ましいと思いますか？（小学校）

- ・幼稚園から1クラスなら、そのまま1クラス
- ・複式学級にならないようにしてほしい 等

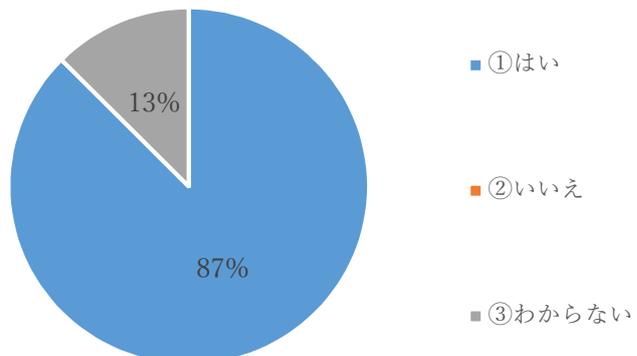


〔設問1〕子ども達にとって学校の学級数はどれぐらいが望ましいと思いますか？（中学校）

- ・複式学級にならないようにしてほしい
- ・目の行き届く学級数
- ・1クラスの良さ、クラス替えの良さ両方ある



〔設問2〕学校の統合は必要だと思いますか？



〔Aグループ〕 テーマ：統廃合せずに現学校数を維持

1. イメージする学校のすがた

	小学校	中学校
校数	5校	2校
全校人数	100～180人	余目中324人 立川中69人
学年学級数	1学級	余目中3学級 立川中1学級
1学級人数	15～30人	余目中30～40人 立川中23人
学校所在地	現在地	現在地
校舎	1小・3小は改築	現在の校舎を利用
その他	幼稚園、学童とのつながりも考慮する	—

2. グループワークの観点

観 点		メリット	デメリット
1	学習環境	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数で質の高い学習 ・一人一人がリーダーや役割を務める機会が多くなる 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な物の見方や考え方、表現の仕方に触れる機会が少ない
2	2-1 生活環境 一人一人にいきとどく	<ul style="list-style-type: none"> ・人間関係が構築されたなかで活動できる ・細かく一人ひとりに目が行き届く 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス替えがなく友達関係が固定化してしまう
	2-2 生活環境 学年集団づくり 切磋琢磨	<ul style="list-style-type: none"> ・意見や感想を発表できる機会が多くなる ・踏み込んだ意見交換ができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活の選択肢が狭い ・クラス同士が切磋琢磨する教育活動ができない
3	3-1 人間関係 安心できる	<ul style="list-style-type: none"> ・異年齢の学習活動を組みやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・進学等の際に大きな集団への適応に困難を来す可能性がある
	3-2 人間関係 切り替えできる	<ul style="list-style-type: none"> ・深い友達関係が築ける 	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス替えができない ・人間関係でつまずくと切り替えが難しい
4	通学	<ul style="list-style-type: none"> ・近くて利便が良い 	<ul style="list-style-type: none"> ・集落によっては、子どもの数が少なく徒歩通学の班編成が組めない可能性がある
5	費用 (新築・改築・修繕・スクールバス)	<ul style="list-style-type: none"> ・徒歩通学が維持され、大規模な統合に比べスクールバスの委託費用が軽減できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・費用が大きい ・新しい学校を複数建替えるコストがとても大きい

6	地域との関わり	<ul style="list-style-type: none"> ・地域に見守られていると感じる ・知らない人がいないくらい、お互いに声をかけあって生活している ・特に合併前の旧町の形をとどめており、文化や歴史の継承につながっている 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校では、2校の規模がアンバランスである
7	教師の負担	<ul style="list-style-type: none"> ・1人1人の学習状況や学習内容の定着状況を的確に把握でき、補充指導や個別指導を含めたきめ細かな指導が行いやすい 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員1人当たりの校務負担や行事に関わる負担が重く、校内研修の時間が十分確保できない
8	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・庄内町の良さ、特色を守っていく 	<ul style="list-style-type: none"> ・PTA 役員のみ手が少ない

3. 考察

(1) この案の特徴（特に際立つ良さ・課題）

- ① 庄内町の良さを守っていく。地域、学区とのつながりを大切にする。(○)
- ② 少人数ならではの教育、例えば何かに特化した教育ができると思う。(○)
- ③ 人と人とのつながり、地域のつながりを感じる教育ができる。(○)
- ④ 話し合いがスムーズに進むと思う。(揉めずに済む) (○)
- ⑤ 統合になるといつも四小学区が標的になってくる気がする。(過去にも) (△)

(2) 課題改善のために考えられるオプション・工夫

- ① 小学校はそのまま大丈夫。
- ② 中学校は部活のあり方を再検討しなければならない。
- ③ 立川地域の小中学一貫校もあり。
- ④ 施設の複合化や今ある施設を最大限活かすことで経費を抑える必要がある。

4. 参加者の感想

(1) グループワーク 2 回目

- ① グループワークに一人しか参加者がいなくて寂しかった。
費用面を考えると、存続・維持は難しいと思うが、何とか維持をお願いしたい。

〔Bグループ〕 テーマ：小学校1校と中学校1校への統廃合の検討結果

1. イメージする学校のすがた

	小学校	中学校
校数	1校	1校
全校人数	752人	393人
学年学級数	3学級	5学級
1学級人数	25～33人	25～33人
学校所在地	—	余目
校舎	新築	現在の校舎を利用
その他	—	—

2. グループワークの観点

観 点		メリット	デメリット
1	学習環境	<ul style="list-style-type: none"> ・多人数学級がなくなる ・教師の負担が減る ・多様な意見に触れさせることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・係や役割分担のない子供が現れる可能性がある ・一人一人が活躍する場や機会が少なくなる場合がある
2	2-1 生活環境 一人一人にいきとどく	<ul style="list-style-type: none"> ・指導上課題のある児童生徒を各学級に分けることにより、きめ細かな指導が可能となる 	<ul style="list-style-type: none"> ・一人一人の個性や行動を把握することが困難となり、問題行動が発生しやすくなる
	2-2 生活環境 学年集団づくり 切磋琢磨	<ul style="list-style-type: none"> ・学級同士が切磋琢磨する環境をつくることのできる 	<ul style="list-style-type: none"> ・集団生活において同学年の結びつきが中心となり、異学年交流の機会が設定しにくくなる場合がある
3	3-1 人間関係 安心できる	<ul style="list-style-type: none"> ・新たな人間関係を構築する力を身につけさせることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・同学年でもお互いの顔や名前を知らないなど、児童生徒の人間関係が希薄化する場合がある
	3-2 人間関係 切り替えできる	<ul style="list-style-type: none"> ・友達が増える ・クラス替えを契機として児童生徒が意欲を新たにすることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・仲の良い友達と別のクラスになり気持ちが不安定になる
4	通学	<ul style="list-style-type: none"> ・スクールバスが多くなり、徒歩通学の事故リスクが軽減される 	<ul style="list-style-type: none"> ・距離が遠くなる (瀬場からの距離が33kmもある)

5	費用 新築・改築・修繕・ スクールバス	・22～26 億 (1 校だけの新築なので経 費が安くすむ) (豪華な校舎ができる)	・スクールバスの委託費用が増 える ・面積が広く土地の選定が難し い
6	地域との関わり	・小学校を 1 校にすることによ り、学区編成を維持したまま の統合が可能となる (放課後や休日は地域での 受け入れ体制を確保する必 要あり)	・地域との関わりが薄れる ・地域の拠点がなくなってい まう
7	教師の負担	・学級の枠を超えた習熟度別指 導や学年内での教員の役割 分担による専科指導等の多 様な指導形態をとることが できる	・学校運営全般にわたり、校長が 一体的なマネジメントを行っ たり、教職員が十分な共通理 解を図ったりする上で支障が 生じる場合がある
8	その他	・子どもたちは新しい校舎に入 れる ・部活の選択肢が増える	・PTA 活動が他人任せになる ・部活動中心の保護者関係が強 くなる

3. 考察

(1) この案の特徴 (特に際立つ良さ・課題)

- ① 小中連携しやすい…町の教育方針がとどく。(○)
- ② 視野が広がる…子ども達が町全体をよく知る。(○)
- ③ 友達が増える。(○)
- ④ 費用がかからない。(○)
- ⑤ 通学距離、時間が長い、不利益感。(△)
- ⑥ 地域との関わりが薄れる…地域の拠点が無くなる。(△)

(2) 課題改善のために考えられるオプション・工夫

① 通学

- ・冬期間だけの分校制にする。
- ・スクールバスを小型化、台数増にして、運行路線が 1 本でなく「各地域⇄学校間」で複数運行させる。
- ・道路整備で通学時間 (バス乗車時間) の短縮。
- ・バス通学は途中でトイレ休憩出来るように。
- ・バスの中で有意義な活動をする。(英会話など)

② 地域

- ・学校では勉強する、地域に帰ったら公民館活動をして生活にメリハリをつける。
- ・放課後などは地域 (高齢者の方々など) で子ども達を預かる。
- ・学校では意識して地域の学習をする。

- ・運動会は地域ごとに開催する。
- ・学童、放課後子ども教室の実施。
- ・コミュニティスクールにより地域とのつながり等を充実させる。

4. 参加の感想

(1) グループワーク 1 回目

- ① 集団づくりができる良さがある。
- ② 部活ができる種目が増える。
- ③ 小学校は2校と考えている。
- ④ 中学校はこのまま2校が良い。
- ⑤ 小学校2校であれば通学の課題は解決される。
- ⑥ 子どもの人数が減るので統廃合は仕方ない。
- ⑦ 通学距離が遠くなるのは大変だと思う。

(2) グループワーク 2 回目

- ① 子ども達の数が減っている現状、校舎の耐用年数等を考えた時に、合併はさけられないと思います。立川小、余目四小を合併と言う案もありますが、当事者、地域の方達は、小学校1校の方が納得できるのではないかと思います。通学距離の問題もありますが、新しい校舎で勉強できるという事と新しい友達ができる等プラス思考で考えてもらいたい。
- ② 小中連携しながら町子ども達を育てることができて良い。大きな集団の中で、より良い人間関係をつくっていくことができる。少子化をメリットに替える。地域と学校が連携しながら子ども達を育てていく。
- ③ 少人数の学校ではなく、大人数の学校生活を子ども達がおくっていくために、小中各1校にすることがいいと思う。小中一貫校による小中の交流も含めた学校生活は良いと思う。10年後の子どもの数の少なさに改めて考えさせられた。
- ④ 小学校1校と中学校1校への統廃合を検討する際、学校を町を中心に建設して小学校と中学校が連携できれば良いと思います。そして公民館をコミセン化にすれば地域との関わりが薄れることもなくなるのではないかと思います。小学生も全員クラブなどに入れて、週に何回か活動できれば良いと思う。
- ⑤ 地域との関わり、通学距離と通学時間を工夫すれば可能なのではと思った。建てる場所も重要な課題になってくるのではないか。
- ⑥ 学区が統合されるという変わり目に、地域のコミセン化という変わり目をうまく活用することができれば、「子ども達のかかわり+大人のかかわり」が今よりも多くなるのではないかと思います。大きな節目になるこの先、後ろ向きになることなく前向きな考え方を、みんなが持つことができるような雰囲気醸成がとても大切だと思います。

〔Cグループ〕 テーマ：4小と立小の統合、1小2小3小の統合検討

1. イメージする学校のすがた

	小学校		中学校		
校数	2校		1校 or 2校		
全校人数	立小・4小 235人	1小2小3小 517人	立中 75人	余中 375人	立中余中 450人
学年学級数	9学級	18学級	3学級	12学級	15学級
1学級人数	・学年2クラス以上の場合 20人前後のクラスが多い ・学年1クラスの場合40人 前後のクラスが多い		25人前後	30人前後	30人前後
学校所在地	立小・4小 立川小学校 へ	1小2小3小 新しい場所 の選定	既存所在地	既存所在地	余目中学校 へ
校舎	規模を含め 立川小学校 を使用する	新築が必要	既存校舎	既存校舎	既存の余目 中学校を長 寿命化改修 し使用する
その他	—	—	—	—	—

2. グループワークの観点

観 点		メリット	デメリット
1	学習環境	・1小2小3小は複数学級となるため、さんさんプランにより23人から30人程度の理想的なクラス編成が可能になる	・立小4小は単学級が残るため、数年後には統合前と同じ状況になってしまう
2	2-1 生活環境 一人一人にいき とどく	・少人数のクラス編成が可能になれば、先生の目が行き届きやすくなる	・立小4小は多人数単学級となる
	2-2 生活環境 学年集団づくり 切磋琢磨	・複数学級になることにより遅しくなる	・立小4小は単学級のため、それほどメリットはない
3	3-1 人間関係 安心できる	・学年全員の顔がわかる程度の人数なので、学年の一体感がある	

	3-2 人間関係 切り替えできる	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス替えにより人間関係がリセットできる ・不登校傾向にある子もリセットされる 	<ul style="list-style-type: none"> ・立小4小はクラス替えがない
4	通学	<ul style="list-style-type: none"> ・1校統合に比べ立谷沢地区の通学負担が軽減される ・余目地域については、人口の多い地域に学校を設置することで、通学距離が全体的に短縮される 	<ul style="list-style-type: none"> ・余中、立中が統合し、施設規模により余中を利用する場合、立谷沢地区（瀬場）から余中まで約32.4kmあるため通学時間の負担がある ・部活動B、C活動の送り迎えの負担が大きい
5	費用 (新築・改築・修繕・スクールバス)	<ul style="list-style-type: none"> ・1小2小3小を新校舎とし、将来的に児童が減少したタイミングで、立小4小を統合し1つの小学校とすることで、新校舎の建設費用を抑えることができる 	<ul style="list-style-type: none"> ・4小は全員通園バスになりスクールバス代がかかる
6	地域との関わり	—	<ul style="list-style-type: none"> ・段階的統合を選択することで、特に立小4小の地域住民の理解を得ることが難しいのではないか
7	教師の負担	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数学級の方が、教師の意思統一がスムーズ ・複数学級だと教師が相談しやすい環境となる 	<ul style="list-style-type: none"> ・立小4小は学級数がかわらないのに、1学級の人数が増えるので負担増になる
8	その他	<ul style="list-style-type: none"> ・2校の児童数に大きな違いがあるため、特色を生かした学校経営が期待できる 	<ul style="list-style-type: none"> ・立小4小の統合により、4小の児童が立中に進学することになれば、余中のような部活動の選択ができない

3. 考察

(1) この案の特徴（特に際立つ良さ・課題）

- ① 2校になることで、通学時間の短縮、費用が削減される。(○)
- ② 1小2小3小は、老朽化した校舎を使用せず新しい校舎を使用できる。(○)
- ③ クラス替えによる子供達の関係性のリセットが可能となる。(○)
- ④ スポ少の選択肢が四小、立小が狭くなることへの不満。(△)
- ⑤ 1校になると通学時間が増える。(△)
- ⑥ 2回引越しすることは将来的に不安。(△)

(2) 課題改善のために考えられるオプション・工夫

- ① 段階的統合により持続可能な新校舎の建設費用に留めることが可能
第一弾 1小2小3小⇒新校舎 立小4小⇒立川校舎
第二弾 児童数の減少と新校舎の教室数にあわせ、立小4小が新校舎へ統合する。
- ② バス費用がかかるのでバスを小型化する、タクシーを利用する、小学生と中学生を一緒に乗せる。
- ③ 新校舎との差がでるので、立小はリフォームして設備差を埋める。

4. 参加者の感想

(1) グループワーク1回目

- ① 小学校の統合パターンだけでなく、中学校の統合を考えたため、短時間で議論するには、難しい場面が多かった。次回は、小学校のみに絞った検討とすることが望ましいと感じました。
- ② 4小のこどもたちが立中へ入学する際、「余中の方が部活の選択肢が多く良かった」という不満がでる。ただ、中学校のことを考えなければ1小2小3小は、クラスは増えるが1クラスあたりの人数が減るのでメリットが大きい。

(2) グループワーク2回目

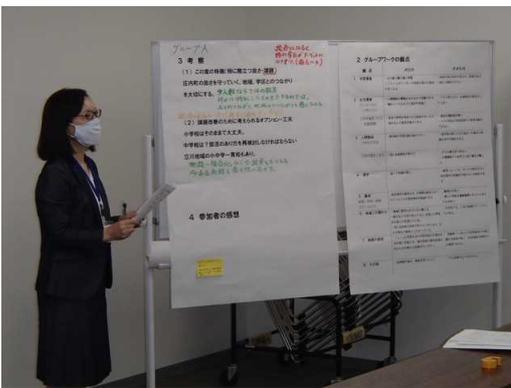
- ① 学校が遠くなると学校に近い場所へ引っ越しする人がでてくる。町内での引っ越しなら良いが、町外に出る場合がある。新設する学校のまわりの土地を宅地用として確保しておけば、そこに引っ越ししてくるのではないか。
- ② 1小2小3小が統合したとしても、特色ある教育をして他市町からも人を呼べるような対策が必要と思う。教育熱心な親は、庄内町の教育が良いとなれば教育を受けさせるために引っ越ししてくると思う。
- ③ 今、地域や庄内町のことを考えて話をしているが、もっと広いことを考える必要がある。町外からも人を呼ぶことを考えないと、人口減少にますます拍車がかかると思う。
- ④ 統合することを優先するとすれば、余目地域として生きてきた者としては、四小も仲間に入れてほしい。
- ⑤ 考える範囲が教育だけでなく、バスや校舎規模による費用等も視野に入ってしまう、まとめるのが難しい。
- ⑥ 2校に分ける事で生じる不公平感は否めない。財政上からすれば何校かの統合はやむなし。
- ⑦ 児童数の状況に合わせて考えていくしかない。今は2校（立小4小と1小2小3小）
- ⑧ 分けるのは難しい。小さくて光る学校が理想。一つにまとめる方が、リスクが小さい。
- ⑨ 考えなければならないことが多く、合併となる学校のことも視野に入れてもらいたい。現状としては2校が望ましい。



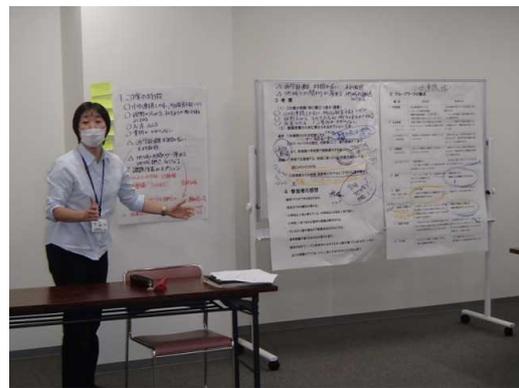
(委任状交付)



(全体会)



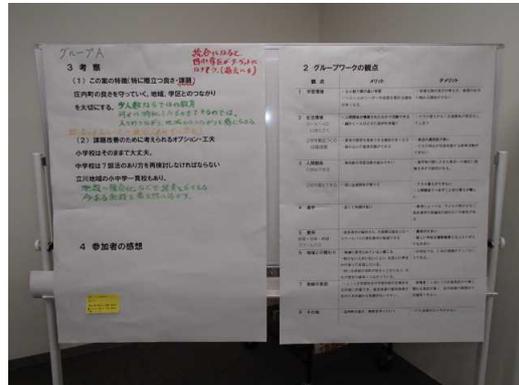
(グループA_発表)



(グループB_発表)



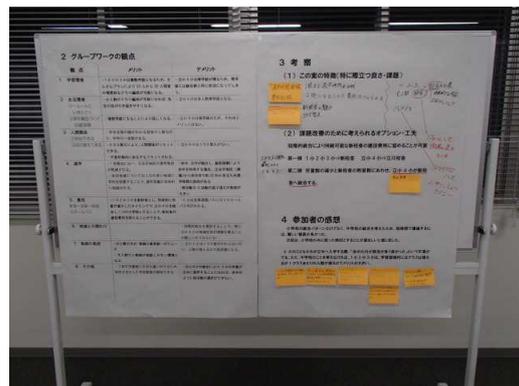
(グループC_発表)



(グループA_検討結果)



(グループB_検討結果)



(グループC_検討結果)

◎ 令和2年5月の学級数（特別支援学級を含む）を基準にした場合の改築、又は長寿命化費用の概算資料

判定結果 築年数 学級数 児童生徒数	1小 改築 築57年 普9+特3=12 221名	2小 長寿命化 築56年 普7+特3=10 209名	3小 改築 築56年 普7+特4=11 214名	4小 長寿命化 築44年 普6+特3=9 133名	立小 長寿命化 築48年 普7+特3=10 170名	余中 長寿命化 築34年 普14+特4=18 414名	立中 長寿命化 築25年 普3+特2=5 103名
	↓						
校舎A 屋体B 合計	改築 1,473,550千円 345,950千円 1,819,500千円	改築 1,282,125千円 300,300千円 1,582,425千円	改築 1,351,675千円 300,300千円 1,651,975千円	改築 1,186,575千円 253,550千円 1,440,125千円	改築 1,334,125千円 300,300千円 1,634,425千円	改築 2,292,225千円 415,525千円 2,707,750千円	改築 944,775千円 319,550千円 1,264,325千円
A×60% B×60% 合計	長寿命化 × × ×	長寿命化 769,275千円 180,180千円 949,455千円	長寿命化 × × ×	長寿命化 711,945千円 152,130千円 864,075千円	長寿命化 800,475千円 180,180千円 980,655千円	長寿命化 1,375,335千円 249,315千円 1,624,650千円	長寿命化 566,865千円 191,730千円 758,595千円

◎ 適正規模・適正配置の参考資料

	小学校	中学校
学級数	標準規模校 12学級以上18学級以下 小学校（各学年2学級～3学級） 中学校（各学年4学級～6学級）	
通学距離	概ね4km以内	概ね6km以内
通学時間	概ね1時間以内	
<small>（学級数）学校教育法施行規則第41条 小学校の学級数は、12学級以上18学級以下を標準とする。ただし、地域の実態その他により特例の事情があるときは、この限りでない。※中学校については第79条において小学校の規定を準用しています。 （通学距離）義務教育学校等の施設費の国庫負担等に関する法律施行令第4条第1項第2号 （通学時間）通学条件の基準調査により9割以上の市町村が1時間以内としている。</small>		

◎ 学級編成の参考資料

国の定めた基準として、小学校1年生は35人、小学校2年生以上は40人を1学級としています。ただし、小学校2年生については、国の加配により35人学級を実施しています。また、山形県は、さんさんプランにより少人数学級編成を行っているため、以下のような編成になっています。

① 小学校1・2年生
35人まで1学級、36人から66人までが2学級、67人から99人までが3学級、100人から132人までが4学級

② 小学校3年生から中学校3年生まで
40人まで1学級、41人から66人までが2学級、67人から99人までが3学級、100人から132人までが4学級、133人から165人までが5学級、166人から198人までが6学級。

③ 複式学級
小学校の複式学級は、2つの学年の児童数が16人まで、小学校1年生が含まれる場合は8人までとなります。中学校の複式学級は、2つの学年の生徒数が8人までとなります。

庄内町立中学校の未来を考える懇談会 ワークショップ テーマ～10年後の学校未来像～ より

< Aグループ >
学校施設をまとめた時のメリットに自治体の財政面などがあり、地域のことや子供達のことを考えるとデメリットもある。何が良い、悪いという結論ではないことを念頭に次のような意見が出された。

- ・学区編成を崩した場合、余目に小学校4校必要なの？余目に4校、立川に1校の在り方から見直す方法、例えば4小のエリアを立小と一緒に合わせるなども考えられる。1小、2小を一緒にするなども考えていいのでは？
- ・大きな小学校や中学校になることにより、例えば、これまでの狩幼、立小、立中のクラス替えがなかったことによる同級生や保護者の相性の問題などが、複数クラスになることにより解消されるメリットもあるのではないか？
- ・庄内町の誇れる所に、学校ごとに幼稚園、小学校、公民館があり、運動会など地域との連携があげられる。学校がなくなることにより、世帯数が減るなど過疎化が進むのではないか？
- ・学校をまとめるのではなく、幼稚園と小学校が隣接しているメリットを生かし、一緒に建物にし、箱物を減らす、管理経費を減らすなどの効率化を図ることも必要では？
- ・小学校が地区からなくなると、ここに住みたいという人が減るのではないか、今の状況を維持し地域と一体となりながら、より効率的な運用を考えていくことも大事では？などの意見が出された。

< Bグループ >
最初から地域の方々などの感情を考えてしまうと、自由な発想ができなくなるので、それは少し置いて自由な意見を出すことに。

- ・児童生徒の減少に伴い統合が必要になってくるのではないかと？1小、2小、3小は建物が50年以上経過している。今後の30年を考えた時に小学校を2校か3校に…、親同士の話では立小と4小を一緒にという噂も聞こえてくる…
- ・小中併設校はどうか（余目の小学校と余目中学校、立小と立川中学校）、または立中を増築し余目中を立川中へという考えはどうか？
- ・思い切って、幼、小、中をそれぞれ1施設ずつにしてはどうか？各小学校のこれまでの特色「金管、マーチング、夏宵祭りへの参加」など、学校による違いや温度差が感じられた。それぞれの特色を新しい学校に取り組むことにより、更に魅力ある庄内町の小学校になるのではないかと？また、学校編成はこれまでどおり変えずに済むメリットがあるのではないかと？
- ・箱物が多いと維持費がかかるので、施設をまとめてバス送迎で対応する。しかし、バスの送迎費用も高額との話もあった。また、園児の送迎距離や時間も配慮する必要がある。庄内町は細長い地形であるため、立谷沢から余目地域までの距離があり、意見がまとまりにくい原因にもなっているとの意見が出された。

小学校必要面積・建設想定費用早見表（多目的教室あり）

校舎、体育館の建設費用のみで、設計費用、備品購入、土地代等は含まれていません。

- 条件1 校舎改築単価325千円/㎡（RC造）… 山形県県有財産総合管理計画基本方針（教育施設）を参考
- 条件2 屋内運動場建築単価275千円/㎡（S造）… 余目第四小学校の建築単価を参考
- 条件3 必要面積は公立学校施設費用国庫負担金等に関する関係法令等の運用細目により

【校舎】

学級数	特別支援学級を置かない場合		特別支援学級一学級加わる場合		特別支援学級二学級加わる場合		特別支援学級三学級加わる場合		特支四学級
	特豪二級地	特豪一級地	特豪二級地	特豪一級地	特豪二級地	特豪一級地	特豪二級地	特豪一級地	特豪二級地
1	923㎡ 299,975千円	939㎡ 305,175千円	1,138㎡ 369,850千円	1,170㎡ 380,250千円	1,352㎡ 439,400千円	1,400㎡ 455,000千円	1,566㎡ 508,950千円	1,630㎡ 529,750千円	
2	1,269㎡ 412,425千円	1,301㎡ 422,825千円	1,483㎡ 481,975千円	1,531㎡ 497,575千円	1,697㎡ 551,525千円	1,761㎡ 572,325千円	1,911㎡ 621,075千円	1,991㎡ 647,075千円	
3	1,613㎡ 524,225千円	1,661㎡ 539,825千円	1,827㎡ 593,775千円	1,891㎡ 614,575千円	2,041㎡ 663,325千円	2,121㎡ 689,325千円	2,255㎡ 732,875千円	2,351㎡ 764,075千円	
4	2,078㎡ 675,350千円	2,142㎡ 696,150千円	2,293㎡ 745,225千円	2,373㎡ 771,225千円	2,507㎡ 814,775千円	2,603㎡ 845,975千円	2,721㎡ 884,325千円	2,833㎡ 920,725千円	
5	2,544㎡ 826,800千円	2,624㎡ 852,800千円	2,758㎡ 896,350千円	2,854㎡ 927,550千円	2,972㎡ 965,900千円	3,084㎡ 1,002,300千円	3,187㎡ 1,035,775千円	3,315㎡ 1,077,375千円	
6	3,008㎡ 977,600千円	3,104㎡ 1,008,800千円	3,222㎡ 1,047,150千円	3,334㎡ 1,083,550千円	3,437㎡ 1,117,025千円	3,565㎡ 833,625千円	3,651㎡ 1,186,575千円	3,795㎡ 1,233,375千円	
7	3,303㎡ 1,073,475千円	3,415㎡ 1,109,875千円	3,517㎡ 1,143,025千円	3,645㎡ 1,184,625千円	3,731㎡ 1,212,575千円	3,875㎡ 1,259,375千円	3,945㎡ 1,282,125千円	4,105㎡ 1,334,125千円	4,159㎡ 1,351,675千円
8	3,597㎡ 1,169,025千円	3,725㎡ 1,210,625千円	3,811㎡ 1,238,575千円	3,955㎡ 1,285,375千円	4,026㎡ 1,308,450千円	4,186㎡ 1,360,450千円	4,240㎡ 1,378,000千円	4,416㎡ 1,435,200千円	
9	3,892㎡ 1,264,900千円	4,036㎡ 1,311,700千円	4,106㎡ 1,334,450千円	4,266㎡ 1,386,450千円	4,320㎡ 1,404,000千円	4,496㎡ 1,461,200千円	4,534㎡ 1,473,550千円	4,726㎡ 1,535,950千円	
10	4,186㎡ 1,360,450千円	4,346㎡ 1,412,450千円	4,400㎡ 1,430,000千円	4,576㎡ 1,487,200千円	4,615㎡ 1,499,875千円	4,807㎡ 1,562,275千円	4,829㎡ 1,569,425千円	5,037㎡ 1,637,025千円	
11	4,481㎡ 1,456,325千円	4,657㎡ 1,513,525千円	4,695㎡ 1,525,875千円	4,887㎡ 1,588,275千円	4,909㎡ 1,595,425千円	5,117㎡ 1,663,025千円	5,123㎡ 1,664,975千円	5,347㎡ 1,737,775千円	
12	4,772㎡ 1,550,900千円	4,964㎡ 1,613,300千円	4,986㎡ 1,620,450千円	5,194㎡ 1,688,050千円	5,200㎡ 1,690,000千円	5,424㎡ 1,762,800千円	5,414㎡ 1,759,550千円	5,654㎡ 1,837,550千円	
13	5,008㎡ 1,627,600千円	5,216㎡ 1,695,200千円	5,222㎡ 1,697,150千円	5,446㎡ 1,769,950千円	5,437㎡ 1,767,025千円	5,677㎡ 1,845,025千円	5,651㎡ 1,836,575千円	5,907㎡ 1,919,775千円	
14	5,245㎡ 1,704,625千円	5,469㎡ 1,777,425千円	5,459㎡ 1,774,175千円	5,699㎡ 1,852,175千円	5,673㎡ 1,843,725千円	5,929㎡ 1,926,925千円	5,888㎡ 1,913,600千円	6,160㎡ 2,002,000千円	
15	5,482㎡ 1,781,650千円	5,722㎡ 1,859,650千円	5,696㎡ 1,851,200千円	5,952㎡ 1,934,400千円	5,910㎡ 1,920,750千円	6,182㎡ 2,009,150千円	6,124㎡ 1,990,300千円	6,412㎡ 2,083,900千円	
16	5,718㎡ 1,858,350千円	5,974㎡ 1,941,550千円	5,932㎡ 1,927,900千円	6,204㎡ 2,016,300千円	6,147㎡ 1,997,775千円	6,435㎡ 2,091,375千円	6,361㎡ 2,067,325千円	6,665㎡ 2,166,125千円	
17	5,955㎡ 1,935,375千円	6,227㎡ 2,023,775千円	6,169㎡ 2,004,925千円	6,457㎡ 2,098,525千円	6,383㎡ 2,074,475千円	6,687㎡ 2,173,275千円	6,598㎡ 2,144,350千円	6,918㎡ 2,248,350千円	
18	6,188㎡ 2,011,100千円	6,476㎡ 2,104,700千円	6,402㎡ 2,080,650千円	6,706㎡ 2,179,450千円	6,616㎡ 2,150,200千円	6,936㎡ 2,254,200千円	6,831㎡ 2,220,075千円	7,167㎡ 2,329,275千円	
19	6,408㎡ 2,082,600千円	6,712㎡ 2,181,400千円	6,622㎡ 2,152,150千円	6,942㎡ 2,256,150千円	6,837㎡ 2,222,025千円	7,173㎡ 2,331,225千円	7,051㎡ 2,291,575千円	7,403㎡ 2,405,975千円	
20	6,628㎡ 2,154,100千円	6,948㎡ 2,258,100千円	6,843㎡ 2,223,975千円	7,179㎡ 2,333,175千円	7,057㎡ 2,293,525千円	7,409㎡ 2,407,925千円	7,271㎡ 2,363,075千円	7,639㎡ 2,482,675千円	
21	6,848㎡ 2,225,600千円	7,184㎡ 2,334,800千円	7,063㎡ 2,295,475千円	7,415㎡ 2,409,875千円	7,277㎡ 2,365,025千円	7,645㎡ 2,484,625千円	7,491㎡ 2,434,575千円	7,875㎡ 2,559,375千円	
22	7,069㎡ 2,297,425千円	7,421㎡ 2,411,825千円	7,283㎡ 2,366,975千円	7,651㎡ 2,486,575千円	7,497㎡ 2,436,525千円	7,881㎡ 2,561,325千円	7,711㎡ 2,506,075千円	8,111㎡ 2,636,075千円	
23	7,289㎡ 2,368,925千円	7,657㎡ 2,488,525千円	7,503㎡ 2,438,475千円	7,887㎡ 2,563,275千円	7,717㎡ 2,508,025千円	8,117㎡ 2,638,025千円	7,931㎡ 2,577,575千円	8,347㎡ 2,712,775千円	
24	7,509㎡ 2,440,425千円	7,893㎡ 2,565,225千円	7,723㎡ 2,509,975千円	8,123㎡ 2,639,975千円	7,937㎡ 2,579,525千円	8,353㎡ 2,714,725千円	8,152㎡ 2,649,400千円	8,584㎡ 2,789,800千円	
25	7,729㎡ 2,511,925千円	8,129㎡ 2,641,925千円	7,943㎡ 2,581,475千円	8,359㎡ 2,716,675千円	8,157㎡ 2,651,025千円	8,589㎡ 2,791,425千円	8,372㎡ 2,720,900千円	8,820㎡ 2,866,500千円	
26	7,949㎡ 2,583,425千円	8,365㎡ 2,718,625千円	8,163㎡ 2,652,975千円	8,595㎡ 2,793,375千円	8,378㎡ 2,722,850千円	8,826㎡ 2,868,450千円	8,592㎡ 2,792,400千円	9,056㎡ 2,943,200千円	
27	8,169㎡ 2,654,925千円	8,601㎡ 2,795,325千円	8,384㎡ 2,724,800千円	8,832㎡ 2,870,400千円	8,598㎡ 2,794,350千円	9,062㎡ 2,945,150千円	8,812㎡ 2,863,900千円	9,292㎡ 3,019,900千円	
28	8,389㎡ 2,726,425千円	8,837㎡ 2,872,025千円	8,604㎡ 2,796,300千円	9,068㎡ 2,947,100千円	8,818㎡ 2,865,850千円	9,298㎡ 3,021,850千円	9,032㎡ 2,935,400千円	9,528㎡ 3,096,600千円	
29	8,610㎡ 2,798,250千円	9,074㎡ 2,949,050千円	8,824㎡ 2,867,800千円	9,304㎡ 3,023,800千円	9,038㎡ 2,937,350千円	9,534㎡ 3,098,550千円	9,252㎡ 3,006,900千円	9,764㎡ 3,173,300千円	
30	8,830㎡ 2,869,750千円	9,310㎡ 3,025,750千円	9,044㎡ 2,939,300千円	9,540㎡ 3,100,500千円	9,258㎡ 3,008,850千円	9,770㎡ 3,175,250千円	9,472㎡ 3,078,400千円	10,000㎡ 3,250,000千円	
31	9,050㎡ 2,941,250千円	9,546㎡ 3,102,450千円	9,264㎡ 3,010,800千円	9,776㎡ 3,177,200千円	9,478㎡ 3,080,350千円	10,006㎡ 3,251,950千円	9,693㎡ 3,150,225千円	10,237㎡ 3,327,025千円	
32	9,270㎡ 3,012,750千円	9,782㎡ 3,179,150千円	9,484㎡ 3,082,300千円	10,012㎡ 3,253,900千円	9,698㎡ 3,151,850千円	10,242㎡ 3,328,650千円	9,913㎡ 3,221,725千円	10,473㎡ 3,403,725千円	
33	9,490㎡ 3,084,250千円	10,018㎡ 3,255,850千円	9,704㎡ 3,153,800千円	10,248㎡ 3,330,600千円	9,919㎡ 3,223,675千円	10,479㎡ 3,405,675千円	10,133㎡ 3,293,675千円	10,709㎡ 3,480,425千円	
34	9,710㎡ 3,155,750千円	10,254㎡ 3,332,550千円	9,924㎡ 3,225,300千円	10,484㎡ 3,407,300千円	10,139㎡ 3,295,175千円	10,715㎡ 3,482,375千円	10,353㎡ 3,364,725千円	10,945㎡ 3,557,125千円	
35	9,930㎡ 3,227,250千円	10,490㎡ 3,409,250千円	10,145㎡ 3,297,125千円	10,721㎡ 3,484,325千円	10,359㎡ 3,366,675千円	10,951㎡ 3,559,075千円	10,573㎡ 3,436,225千円	11,181㎡ 3,633,825千円	
36	10,151㎡ 3,299,075千円	10,727㎡ 3,486,275千円	10,365㎡ 3,368,625千円	10,957㎡ 3,561,025千円	10,579㎡ 3,438,175千円	11,187㎡ 3,635,775千円	10,793㎡ 3,507,725千円	11,417㎡ 3,710,525千円	

【屋内運動場】

学級数（特別支援学校を含む）	面積（特豪一級二級同じ）	学級数（特別支援学校を含む）	面積（特豪一級二級同じ）
1学級～9学級	922㎡ 253,550千円	12学級～23学級	1,258㎡ 345,950千円
10学級～11学級	1,092㎡ 300,300千円	24学級以上	1,552㎡ 426,800千円

参考資料2-2

中学校必要面積・建設想定費用早見表（多目的教室あり）

校舎、体育館の建設費用のみで、設計費用、備品購入、土地代等は含まれていません。

- 条件1 校舎改築単価325千円/㎡（RC造）… 山形県県有財産総合管理計画基本方針（教育施設）を参考
- 条件2 屋内運動場建築単価275千円/㎡（S造）… 余目第四小学校の建築単価を参考
- 条件3 必要面積は公立学校施設費国庫負担金等に関する関係法令等の運用細目により

【校舎】

学級数	特別支援学級を置かない場合		特別支援学級一学級加わる場合		特別支援学級二学級加わる場合		特別支援学級三学級加わる場合		特支四学級
	特豪二級地	特豪一級地	特豪二級地	特豪一級地	特豪二級地	特豪一級地	特豪二級地	特豪一級地	特豪二級地
1	953㎡ 309,725千円	969㎡ 314,925千円	1,155㎡ 375,375千円	1,187㎡ 385,775千円	1,356㎡ 440,700千円	1,404㎡ 456,300千円	1,558㎡ 506,350千円	1,622㎡ 527,150千円	
2	1,688㎡ 548,600千円	1,720㎡ 559,000千円	1,890㎡ 614,250千円	1,938㎡ 629,850千円	2,092㎡ 679,900千円	2,156㎡ 700,700千円	2,293㎡ 745,225千円	2,373㎡ 771,225千円	
3	2,424㎡ 787,800千円	2,472㎡ 803,400千円	2,625㎡ 853,125千円	2,689㎡ 873,925千円	2,827㎡ 918,775千円	2,907㎡ 944,775千円	3,029㎡ 984,425千円	3,125㎡ 1,015,625千円	
4	2,820㎡ 916,500千円	2,884㎡ 937,300千円	3,022㎡ 982,150千円	3,102㎡ 1,008,150千円	3,223㎡ 1,047,475千円	3,319㎡ 1,078,675千円	3,425㎡ 1,113,125千円	3,537㎡ 1,149,525千円	
5	3,216㎡ 1,045,200千円	3,296㎡ 1,071,200千円	3,418㎡ 1,110,850千円	3,514㎡ 1,142,050千円	3,619㎡ 1,176,175千円	3,731㎡ 1,212,575千円	3,821㎡ 1,241,825千円	3,949㎡ 1,283,425千円	
6	3,611㎡ 1,173,575千円	3,707㎡ 1,204,775千円	3,813㎡ 1,239,225千円	3,925㎡ 1,275,625千円	4,014㎡ 1,304,550千円	4,142㎡ 1,346,150千円	4,216㎡ 1,370,200千円	4,360㎡ 1,417,000千円	
7	3,985㎡ 1,295,125千円	4,097㎡ 1,360,775千円	4,187㎡ 1,360,775千円	4,315㎡ 1,402,375千円	4,388㎡ 1,426,100千円	4,532㎡ 1,472,900千円	4,590㎡ 1,491,750千円	4,750㎡ 1,543,750千円	
8	4,359㎡ 1,416,675千円	4,487㎡ 1,458,275千円	4,561㎡ 1,482,325千円	4,705㎡ 1,529,125千円	4,762㎡ 1,547,650千円	4,922㎡ 1,599,650千円	4,964㎡ 1,613,300千円	5,140㎡ 1,670,500千円	
9	4,733㎡ 1,538,225千円	4,877㎡ 1,585,025千円	4,935㎡ 1,603,875千円	5,095㎡ 1,655,875千円	5,136㎡ 1,669,200千円	5,312㎡ 1,726,400千円	5,338㎡ 1,734,850千円	5,530㎡ 1,797,250千円	
10	5,107㎡ 1,659,775千円	5,267㎡ 1,711,775千円	5,309㎡ 1,725,425千円	5,485㎡ 1,782,625千円	5,510㎡ 1,790,750千円	5,702㎡ 1,853,150千円	5,712㎡ 1,856,400千円	5,920㎡ 1,924,000千円	
11	5,481㎡ 1,781,325千円	5,657㎡ 1,838,525千円	5,683㎡ 1,846,975千円	5,875㎡ 1,909,375千円	5,884㎡ 1,912,300千円	6,092㎡ 1,979,900千円	6,086㎡ 1,977,950千円	6,310㎡ 2,050,750千円	
12	5,860㎡ 1,904,500千円	6,052㎡ 1,966,900千円	6,061㎡ 1,969,825千円	6,269㎡ 2,037,425千円	6,263㎡ 2,035,475千円	6,487㎡ 2,108,275千円	6,464㎡ 2,100,800千円	6,704㎡ 2,178,800千円	
13	6,052㎡ 1,966,900千円	6,260㎡ 2,034,500千円	6,254㎡ 2,032,550千円	6,478㎡ 2,105,350千円	6,456㎡ 2,098,200千円	6,696㎡ 2,176,200千円	6,657㎡ 2,163,525千円	6,913㎡ 2,246,725千円	
14	6,245㎡ 2,029,625千円	6,469㎡ 2,102,425千円	6,447㎡ 2,095,275千円	6,687㎡ 2,173,275千円	6,648㎡ 2,160,600千円	6,904㎡ 2,243,800千円	6,850㎡ 2,226,250千円	7,122㎡ 2,314,650千円	7,053㎡ 2,292,225千円
15	6,438㎡ 2,092,350千円	6,678㎡ 2,170,350千円	6,640㎡ 2,158,000千円	6,896㎡ 2,241,200千円	6,841㎡ 2,223,325千円	7,113㎡ 2,311,725千円	7,043㎡ 2,288,975千円	7,331㎡ 2,382,575千円	
16	6,631㎡ 2,155,075千円	6,887㎡ 2,238,275千円	6,832㎡ 2,220,400千円	7,104㎡ 2,308,800千円	7,034㎡ 2,286,050千円	7,322㎡ 2,379,650千円	7,236㎡ 2,351,700千円	7,540㎡ 2,450,500千円	
17	6,824㎡ 2,217,800千円	7,096㎡ 2,306,200千円	7,025㎡ 2,283,125千円	7,313㎡ 2,376,725千円	7,227㎡ 2,348,775千円	7,531㎡ 2,447,575千円	7,428㎡ 2,414,100千円	7,748㎡ 2,518,100千円	
18	7,015㎡ 2,279,875千円	7,303㎡ 2,373,475千円	7,217㎡ 2,345,525千円	7,521㎡ 2,444,325千円	7,419㎡ 2,411,175千円	7,739㎡ 2,515,175千円	7,620㎡ 2,476,500千円	7,956㎡ 2,585,700千円	
19	7,271㎡ 2,363,075千円	7,575㎡ 2,461,875千円	7,473㎡ 2,428,725千円	7,793㎡ 2,532,725千円	7,674㎡ 2,494,050千円	8,010㎡ 2,603,250千円	7,876㎡ 2,559,700千円	8,228㎡ 2,674,100千円	
20	7,527㎡ 2,446,275千円	7,847㎡ 2,550,275千円	7,728㎡ 2,511,600千円	8,064㎡ 2,620,800千円	7,930㎡ 2,577,250千円	8,282㎡ 2,691,650千円	8,132㎡ 2,642,900千円	8,500㎡ 2,762,500千円	

【屋内運動場】

学級数（特別支援学校を含む）	面積（特豪一級二級同じ）	学級数（特別支援学校を含む）	面積（特豪一級二級同じ）
1学級～7学級	1,162㎡ 319,550千円	14学級～33学級	1,511㎡ 415,525千円
8学級～13学級	1,237㎡ 340,175千円	34学級以上	1,515㎡ 416,625千円

令和2年度建築単価（補助単価）

（山形県）

事業区分	建設区分	構造	建築単価（円/㎡）
小中学校	校舎	RC造	209,500
		S造	183,900
幼稚園	屋内運動場	RC造	231,200
		S造	196,800

庄内町管内図

参考資料3

【第三学区】
園児 53名
児童 214名
生徒 118名

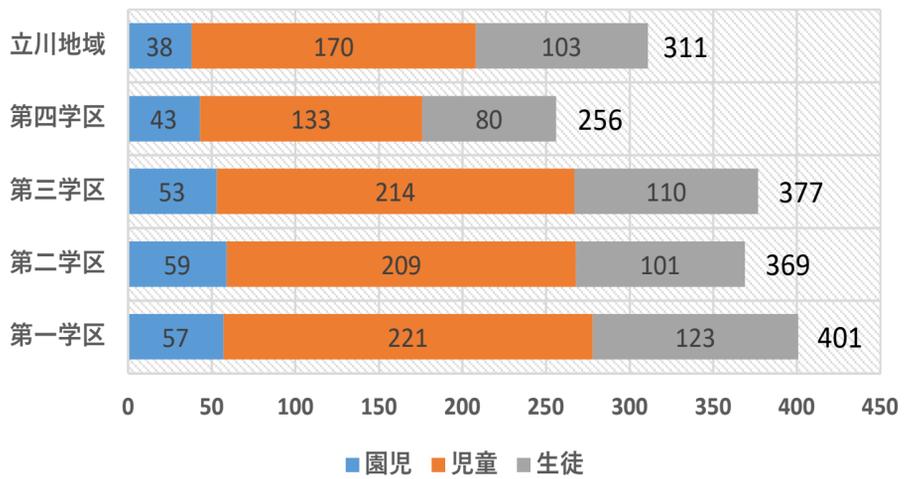
【第四学区】
園児 43名
児童 133名
生徒 80名

第一学区
園児 57名
児童 221名
生徒 113名

【第二学区】
園児 59名
児童 209名
生徒 103名

【立川地域】
園児 38名
児童 170名
生徒 103名

園児、児童生徒数



集落別児童生徒数及びスクールバス関係資料

地区	集落名	児童・生徒数	1小まで	余中まで	Googleマップ検索
第1学区	表町	34	2.3	0.5	1小から
	猿田町	50	2.2	0.2	2小まで 2.2km 3分
	和光町	32	1.7	0.3	3小まで 3.5km 7分
	興野	29	1.4	0.6	4小まで 7.1km 11分
	館	12	1.3	0.7	余中まで 2.4km 4分
	南口	20	0.9	1.4	立小まで 11.7km 14分
	長畑	11	0.3	1.7	立中まで 11.9km 15分
	下朝丸	7	1.1	1.6	
	梵天町	6	1.7	0.6	西野から
	落合	19	2.2	4.2	立小まで 14.6km 22分
	家根合	20	1.2	3.2	立中まで 14.8km 23分
	高田麦	7	0.5	2.5	
	宮曾根	10	1.1	3.1	
	杉浦	7	1.1	3.1	
	久田	6	1.1	3.1	
	深川	8	1.4	3.4	
	西野	3	2.5	3.6	
	松陽	63	1.9	0.8	

地区	集落名	児童・生徒数	2小まで	余中まで	Googleマップ検索
第2学区	駅前	18	0.8	0.4	2小から
	東一番町	26	0.8	0.8	1小まで 2.2km 3分
	上朝丸	94	0.3	0.9	3小まで 2.1km 5分
	緑町	25	0.4	1.0	4小まで 5.5km 8分
	幸町	24	0.6	1.1	余中まで 1.3km 5分
	常万	22	1.7	2.3	立小まで 9.7km 12分
	余目新田	22	2.4	3.0	立中まで 9.8km 12分
	上堀野	6	2.3	2.9	
	中堀野	7	2.9	3.3	
	大野	5	3.1	4.5	
	田谷	8	3.3	4.7	
	西小野方	4	2.1	3.5	
	近江新田	5	2.5	3.9	
	吉岡	6	1.7	3.1	
	生三	2	2.8	3.2	
	島田	0	1.1	2.5	
	払田	28	0.3	1.5	
	茗荷瀬	8	1.3	1.8	

地区	集落名	児童・生徒数	3小まで	余中まで	Googleマップ検索
第3学区	仲町	57	1.0	0.6	3小から
	御殿町	90	1.0	0.6	1小まで 3.5km 7分
	茶屋町	43	1.0	0.4	2小まで 2.1km 5分
	廿六木	64	0.6	1.6	4小まで 6.6km 8分
	堤興屋	1	1.8	3.0	余中まで 1.3km 3分
	横島	4	2.0	3.2	立小まで 10.5km 14分
	千河原	20	2.7	3.6	立中まで 10.3km 14分
	平岡	14	2.1	3.0	
	榎木	8	2.9	2.5	千河原から
	跡	16	2.0	1.7	立小まで 12.6km 18分
	下堀野	3	2.1	2.5	立中まで 12.5km 18分
	福原	4	1.7	2.0	

地区	集落名	児童・生徒数	4小まで	余中まで	Googleマップ検索
第4学区	廻館	29	1.7	4.1	4小から
	南野	23	0.5	5.5	1小まで 7.1km 11分
	古関	19	1.7	7.0	2小まで 5.5km 8分
	沢新田	13	1.9	6.9	3小まで 6.6km 8分
	連枝	10	2.1	4.5	余中まで 5.9km 9分
	赤淵新田	1	1.3	4.1	立小まで 4.2km 6分
	小出新田	21	2.4	4.0	立中まで 4km 6分
	堤新田	4	2.0	4.3	
	前田野目	14	1.2	6.9	
	福島	2	1.8	7.5	
	大真木	9	2.5	8.2	
	返吉	2	2.5	8.3	
	京島	10	3.3	9.0	
	新田目	1	2.7	8.4	
	本小野方	3	3.3	7.0	
	吉方	16	2.9	6.0	
	西袋	16	4.0	5.3	
	南興屋	4	1.4	5.3	
	中野	3	0.8	5.9	
	南野新田	6	0.4	6.1	
主殿新田	8	0.3	6.0		

地区	集落名	児童・生徒数	立小まで	立中まで	Googleマップ検索
立谷沢地区	瀬場	0	23.5	23.4	立小から
	大中島	1	21.3	21.2	1小まで 11.7km 14分
	新田	2	19.8	19.7	2小まで 9.7km 12分
	工藤沢	3	17.7	17.6	3小まで 10.5km 14分
	科沢	2	15.9	15.8	4小まで 4.2km 6分
	木ノ沢	1	13.7	13.6	余中まで 9.8km 14分
	中村	1	13.1	13	
	鉢子	0	14.0	13.9	立中から
	大平	0	11.8	11.7	1小まで 11.9km 15分
	松野木	5	11.2	11.1	2小まで 9.8km 12分
清川地区	肝煎	0	10.4	10.3	3小まで 10.3km 14分
	興屋	2	10.3	10.2	4小まで 4km 6分
	中島	4	9.2	9.1	余中まで 9.9km 15分
	生織沢	4	7.4	7.4	
	片倉	4	7.2	7.2	瀬場から
	上荒宿	3	6.0	5.9	1小まで 33.6km 41分
	南町	4	6.2	6.1	2小まで 31.6km 38分
	荒宿	2	5.8	5.7	3小まで 33km 38分
	川端	1	5.4	5.3	4小まで 26.8km 31分
	本町	1	5.4	5.3	余中まで 32.4km 40分
狩川地区	裏町	0	5.4	5.3	立小まで 24.1km 30分
	新屋敷	2	5.4	5.3	立中まで 24km 30分
	新町	1	5.3	5.2	
	駅前	4	5.0	4.9	
	幸町	2	4.7	4.6	
	東興野	18	2.5	2.4	
	荒鍋	22	2.4	2.3	
	出川原	2	3.4	3.3	
	緑町	3	1.5	1.4	
	今岡	12	1.3	1.2	
上幅	14	1.0	0.9		
圃町	15	0.6	0.5		
賣地目	9	0.9	0.8		
賣地目(砂山外)		1.9	1.9		
下幅	3	0.9	0.8		
吹払	21	0.7	0.6		
栄町	1	0.8	0.8		
西興野	10	1.4	1.4		
烏町	15	0.5	0.4		
馬場	14	0.7	0.6		
馬場(山崎)		1.6	1.5		
添津	16	3.1	3.0		
三ヶ沢	20	4.1	4.0		
千本杉	3	3.0	3.1		
桑田	7	1.5	1.6		
旭町	4	1.9	1.8		
東本町	3	1.7	1.7		
新広町	13	0.8	0.8		

- 小学校 夏期スクールバス運行
- 小学校 冬期スクールバス運行
- 中学校 夏期スクールバス運行
- 中学校 冬期スクールバス運行

業務名	委託料	付記
スクールバス運行委託料(通年運行分)	46,761千円	令和元年度決算額
民間バス等運行委託料(冬期運行分)	32,346千円	

79,107千円

【通年運行バス】

幼稚園バス	5台	(各園1台)
立川地域	4台	(小中)
余目地域	4台	(小中)
	13台	

【冬期運行バス】

第一小学校	3台	(小中)
第二小学校	3台	(小中)
第三小学校	1台	(中のみ)
第四小学校	2台	(小のみ)
狩川地域	1台	(小中)
	10台	

小中学校の統合校舎・屋内運動場の新增築

●負担対象経費の財源内訳（校舎・屋内運動場共通）

国庫補助 50%	地方負担 50%			
	一般財源 10%	財源対策債 15%	学校教育施設等整備事業債 75%	
新增築（負担率 1/2）			50%	70%
50%	8.75%	3.75%	26.25%	11.25%
	100%			

地方負担充当率	90.00%
実質地方負担	20.00%

●単独事業分を含めた財源内訳（校舎）

建設費用：325,000円/㎡（校舎RC造）
補助単価：209,500円/㎡（建設費用の64.5%）

国庫補助 32.25%	地方負担 32.25%				単独事業分 35.5%
	一般財源 10%	財源対策債 15%	学校教育施設等整備事業債 75%		
新增築（負担率 1/2）					学校教育施設等整備事業債 75%
32.25%	5.64%	2.42%	16.93%	7.26%	26.6%
	64.5%				35.5%
	100%				

地方・単独負担充当率	82.14%
実質地方負担	48.40%

●単独事業分を含めた財源内訳（屋内運動場）

建設費用：275,000円/㎡（屋内運動場S造）
補助単価：196,800円/㎡（建設費用の71.6%）

国庫補助 35.8%	地方負担 35.8%				単独事業分 28.4%
	一般財源 10%	財源対策債 15%	学校教育施設等整備事業債 75%		
新增築（負担率 1/2）					学校教育施設等整備事業債 75%
35.8%	6.3%	2.6%	18.8%	8.1%	21.3%
	71.6%				28.4%
	100%				

地方・単独負担充当率	83.18%
実質地方負担	42.80%

小中学校長寿命化改良事業

●負担対象経費の財源内訳

建設費用：195,000円/㎡（@325,000*60%）
補助単価：209,500円/㎡

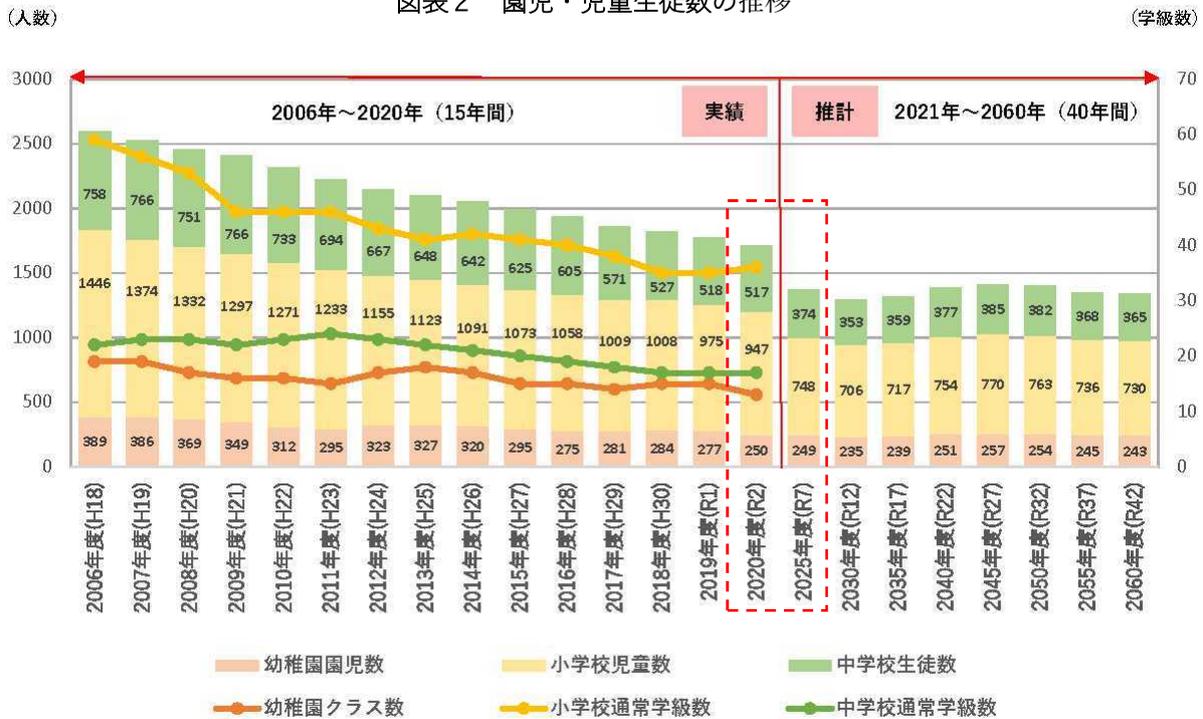
国庫補助 33.3%	地方負担 66.7%			
	一般財源 10%	財源対策債 15%	学校教育施設等整備事業債 75%	
長寿命化改良（交付金算定割合 1/3）			50%	70%
33.3%	11.7%	5.0%	35.0%	15.0%
	100%			

地方負担充当率	90.00%
実質地方負担	26.70%

3. 園児・児童生徒数の推移

2006年度（H18）の園児・児童生徒数が2,593人でしたが、2020年度（R2）には1,714人まで減少し、879人（約34%）の減少となりました。本計画期間の最終年となる2060年度（R42）には、園児243人、児童730人、生徒365人、園児・児童生徒の合計で1,338人となることが予想され、令和2年5月を基準にすると、376人（約22%）の減少となる見込です。

図表2 園児・児童生徒数の推移



- ※1 推計は「図表1 年齢3区分別人口の比較（庄内町人口ビジョン（令和2年3月改訂））の年少人口の数値を反映
- ※2 2009年度、狩川小学校、清川小学校、立谷沢小学校が統合し立川小学校へ

年度	幼稚園	小学校	中学校	合計
2020年度(R2)	250	947	517	1,714
2020年度(R2)	284	853	426	1,563
2025年度(R7)	249	748	374	1,371
2030年度(R12)	235	706	353	1,294
2035年度(R17)	239	717	359	1,315
2040年度(R22)	251	754	377	1,383
2045年度(R27)	257	770	385	1,412
2050年度(R32)	254	763	382	1,399
2055年度(R37)	245	736	368	1,349
2060年度(R42)	243	730	365	1,338

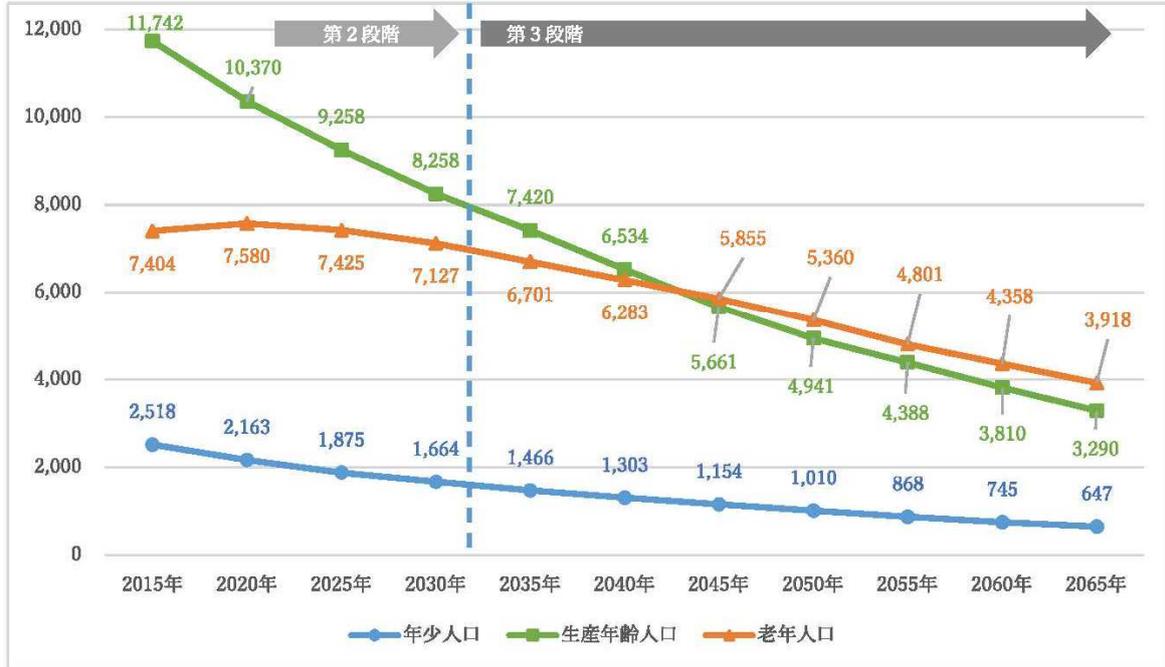
年度	就学時前	推計値
2020年度(R2)	569	2,132
2025年度(R7)	498	1,869
2030年度(R12)	471	1,765
2035年度(R17)	478	1,793
2040年度(R22)	503	1,886
2045年度(R27)	513	1,925
2050年度(R32)	509	1,908
2055年度(R37)	490	1,839
2060年度(R42)	486	1,824

- ※3 2020年度の実績から2025年度の推計において、一時的に減少幅が大きい理由は、2020年度の実績（1,714人）が151人上回っているため

庄内町人口ビジョン（令和2年3月改訂）より抜粋

図表 25 推計パターン1による年齢3区分別人口の比較

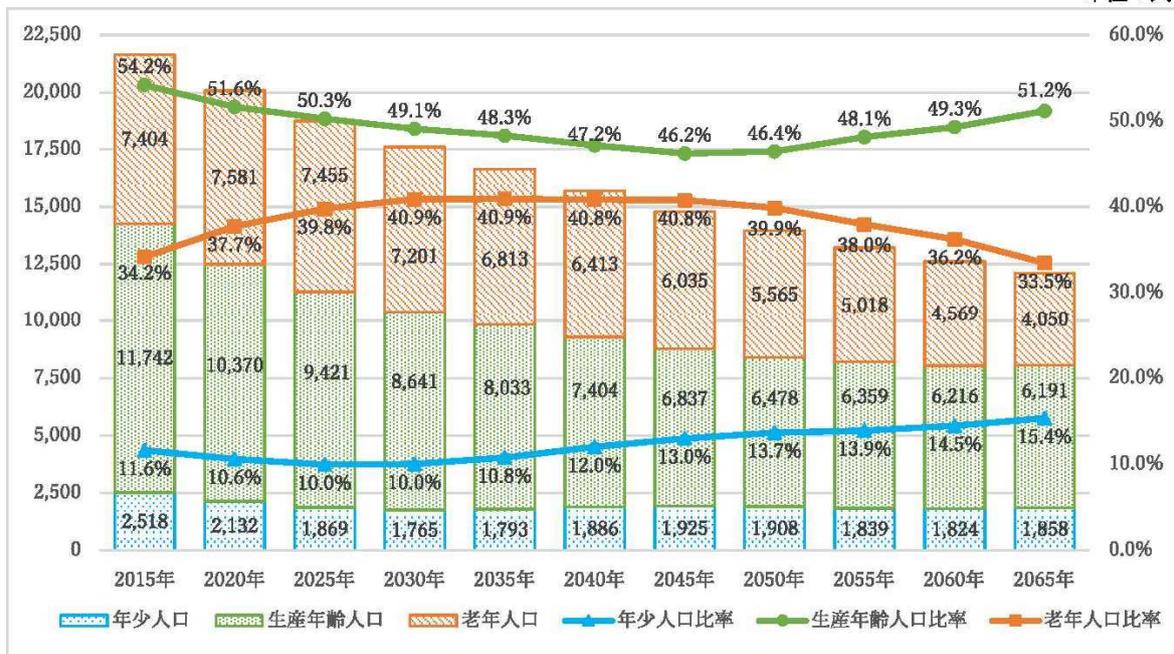
単位：人



資料：RESAS および国配布のワークシートより作成

図表 27 人口の将来展望（年齢3区分別人口及び割合）

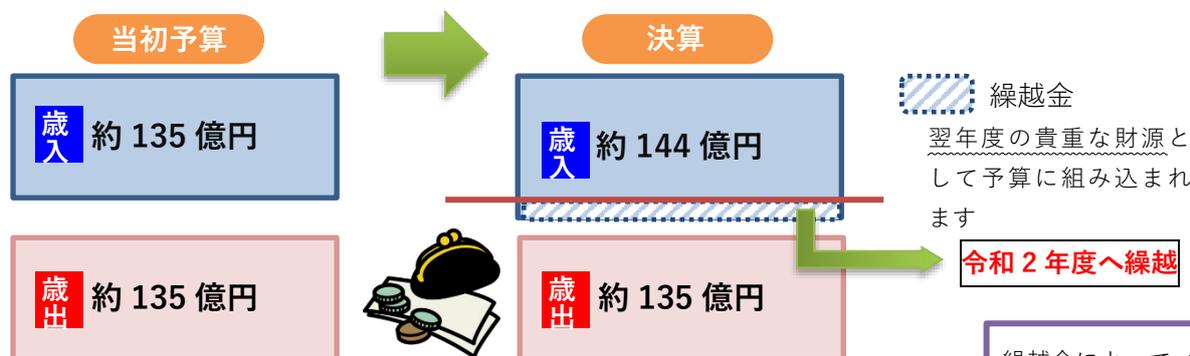
単位：人



資料：RESAS および国配布のワークシートより作成

庄内町の財政状況（令和元年度予算・決算）

(1) 令和元年度一般会計の予算と決算



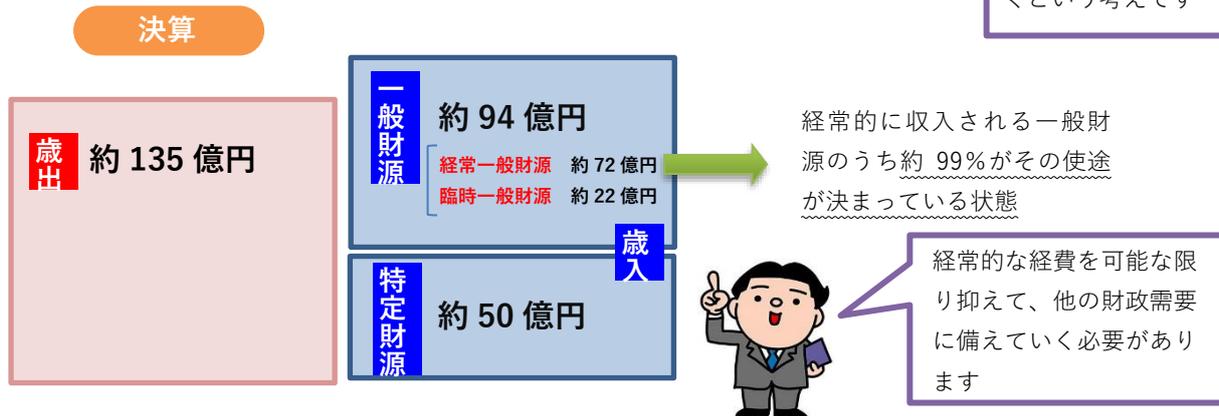
「予算」 お金をどのように集め、使うか1年ごとに計画したもの

「決算」 予算にそって1年間のお金のやりくりができたのか確認すること



繰越金によって、後年度の財源とすることで負担の軽減を図っています
⇒いくらまで使えるではなく、必要なものを効率的に行っていくという考えです

(2) 令和元年度一般会計決算の特徴



「一般財源」 財源の用途が特定されず、どのような経費にも使用することができるもの（＝自由に使用できるお金）

「特定財源」 財源の用途が特定されているもの

(3) 今後の財政運営について

● 増え続ける財政需要

公共施設の老朽化・施設の維持管理費の増加・消費税率の引き上げ・社会保障費
新型コロナウイルス感染症対応・公債費（借金返済）の高止まり など

● 増えない収入

市町村合併の効果の縮小（普通交付税一本算定・合併特例債の発行上限額まで残り僅か）
新型コロナウイルス感染症の税収への影響

持続可能な庄内町へ



(4) 令和元年度教育費施設関連決算

区分/年度		平成29年度	平成30年度	令和元年度	備考
一般会計 計		12,598,512	13,125,882	13,469,088	
教育費 計	A	1,854,675	1,656,180	1,564,010	
小学校費	①	152,858	144,827	240,511	
中学校費	②	88,292	150,430	141,585	
幼稚園費	③	212,454	241,985	242,067	
小計ア	①+②+③	453,604	537,242	624,163	
公債費 計	B	1,530,327	1,652,852	1,701,954	
小学校関連	①	129,765	127,551	125,109	
中学校関連	②	58,323	58,323	58,331	
幼稚園関連	③	10,695	10,686	10,679	
小計イ	①+②+③	198,783	196,560	194,119	
	ア+イ	652,387	733,802	818,282	



<参考>一般会計に占める割合

区分	平成29年度	平成30年度	令和元年度	備考
教育費/一般会計	14.7	12.6	11.6	
小中幼/一般会計	3.6	4.1	4.6	
小中幼+公債費/一般会計	5.2	5.6	6.1	

(5) 類似団体との比較

区分	平成29年度	平成30年度	備考
教育費 計 (千円)	1,854,675	1,656,180	
庄内町1人あたり歳出額 (円)	85,500	77,460	
類似団体1人あたり歳出額 (円)	49,864	50,451	
普通建設事業費 (千円)	495,212	307,526	
庄内町1人あたり歳出額 (円)	22,829	14,383	
類似団体1人あたり歳出額 (円)	13,211	12,346	
一般財源等 (千円)	1,239,901	1,206,153	
庄内町1人あたり歳出額 (円)	57,159	56,412	
類似団体1人あたり歳出額 (円)	35,594	36,606	



市町村を人口と産業構造により分類したもので、類似する他自治体との比較により、財政状況の特徴を把握することができます。

人口は各年度1月1日現在：平成29年度21,692人・平成30年度21,381人

(6) その他

10億円借金し、返済を5年据え置き、その後25年間とした場合の負担（利率1%・元利均等）

元金償還額 10億円 1年あたりの償還額 約0.45億円
 利子償還額 約1.8億円

庄内町立小中学校 児童生徒数推移(令和2年5月1日現在)

年度	学年	余目第一小学校	余目第二小学校	余目第三小学校	余目第四小学校	立川小学校	計	余目中学校	立川中学校	計	小中計
2019年度 (令和1)	1年	47	34	29	15	23	148	148	32	180	
	2年	25	31	36	28	27	147	120	31	151	
	3年	41	32	31	14	18	136	156	31	187	
	4年	40	29	40	28	42	179				
	5年	42	42	37	27	35	183				
	6年	38	35	42	28	39	182				
	計	233	203	215	140	184	975	424	94	518	
2020年度 (令和2)	1年	29	36	40	19	25	149	145	40	185	
	2年	44	35	29	16	23	147	149	32	181	
	3年	25	32	37	28	27	149	120	31	151	
	4年	42	33	31	15	18	139				
	5年	39	31	40	28	42	180				
	6年	42	42	37	27	35	183				
	計	221	209	214	133	170	947	414	103	517	
2021年度 (令和3)	1年	31	34	27	23	25	140	148	35	183	
	2年	29	36	40	19	25	149	145	40	185	
	3年	44	35	29	16	23	147	149	32	181	
	4年	25	32	37	28	27	149				
	5年	42	33	31	15	18	139				
	6年	39	31	40	28	42	180				
	計	210	201	204	129	160	904	442	107	549	
2022年度 (令和4)	1年	26	29	31	24	14	124	138	42	180	
	2年	31	34	27	23	25	140	148	35	183	
	3年	29	36	40	19	25	149	145	40	185	
	4年	44	35	29	16	23	147				
	5年	25	32	37	28	27	149				
	6年	42	33	31	15	18	139				
	計	197	199	195	125	132	848	431	117	548	
2023年度 (令和5)	1年	34	30	20	16	30	130	121	18	139	
	2年	26	29	31	24	14	124	138	42	180	
	3年	31	34	27	23	25	140	148	35	183	
	4年	29	36	40	19	25	149				
	5年	44	35	29	16	23	147				
	6年	25	32	37	28	27	149				
	計	189	196	184	126	144	839	407	95	502	
2024年度 (令和6)	1年	35	25	34	20	25	139	122	27	149	
	2年	34	30	20	16	30	130	121	18	139	
	3年	26	29	31	24	14	124	138	42	180	
	4年	31	34	27	23	25	140				
	5年	29	36	40	19	25	149				
	6年	44	35	29	16	23	147				
	計	199	189	181	118	142	829	381	87	468	
2025年度 (令和7)	1年	32	30	26	17	15	120	124	25	149	
	2年	35	25	34	20	25	139	122	27	149	
	3年	34	30	20	16	30	130	121	18	139	
	4年	26	29	31	24	14	124			0	
	5年	31	34	27	23	25	140			0	
	6年	29	36	40	19	25	149			0	
	計	187	184	178	119	134	802	367	68	435	
2026年度 (令和8)	1年	26	24	23	11	15	99	124	25	149	
	2年	32	30	26	17	15	120	124	23	147	
	3年	35	25	34	20	25	139	122	27	149	
	4年	34	30	20	16	30	130			0	
	5年	26	29	31	24	14	124			0	
	6年	31	34	27	23	25	140			0	
	計	184	172	161	111	124	752	370	75	445	
2027年度	1年							115	25	140	
	2年							124	25	149	
	3年							124	23	147	
	計							363	73	436	
2028年度	1年							110	14	124	
	2年							115	25	140	
	3年							124	25	149	
	計							349	64	413	
2029年度	1年							100	30	130	
	2年							110	14	124	
	3年							115	25	140	
	計							325	69	394	
2030年度	1年							114	25	139	
	2年							100	30	130	
	3年							110	14	124	
	計							324	69	393	
2031年度	1年							105	15	120	
	2年							114	25	139	
	3年							100	30	130	
	計							319	70	389	
2032年度	1年							84	15	99	
	2年							105	15	120	
	3年							114	25	139	
	計							303	55	358	

※2021年度以降人数は令和2年6月16日時点のCOKASデータより。住民登録数値のため各学校在籍者数との相違あり